

昭和大学新聞

学校法人 昭和大学
 発行人 小口勝司
 電話 (3784) 8000 〒142-8555
 東京都品川区旗の台1の5の8
 1部 50円 毎月1回発行

11月号の内容

- 1面
 ・東京オリンピック・パラリンピック職員・学生が大会運営に貢献
- 2面
 ・大学院秋季修了式
 ・薬学部卒業式・学位記伝達式
 ・医学部白衣授与式
 ・昭和大学リカレントカレッジ秋期開講式
 ・ヒューマンライツ・トークショー開催
 ・就任のお知らせ
- 3面
 ・学生研修報告
 ・1年生寮生活再開 PCR検査実施後、富士吉田キャンパスへ
- 4面
 ・動物モデルの敗血症死を阻止する新薬開発に成功
 ・小原信講師が老化および老年医学研究助成を受賞
 ・昭和大学リカレントカレッジ活動報告
 ・昭和大学サポート寄付金寄付者氏名

【問合せ先】

【本紙について：総務課大学広報係】
 03-3784-8059
 press@ofc.showa-u.ac.jp

【各種募金・寄付について：企画課】
 03-3784-8387

【学事について：学務課・大学院課・入学支援課】
 03-3784-8022 (旗の台)
 0555-22-4403 (富士吉田)
 045-985-6503 (横浜)
 03-3784-8026 (入学支援課)

東京オリンピック・パラリンピック

職員・学生が大会運営に貢献

57年ぶりに東京で開催された第32回オリンピック競技大会(7月23日〜8月8日)、第16回パラリンピック競技大会(8月24日〜9月5日)に、本学の職員95名と学生16名が、メディカルスタッフ・学生ボランティアとして参加した。

コロナ禍で運営体制がたびたび変更となる中、メディカルスタッフは競技会場の医務室などでの初期診療にあたり、学生はメディカルスタッフやアシートのサポートをはじめ、給水係や案内係など多岐にわたった活動で大会運営に貢献した。

森田 将

(江東豊洲病院泌尿器科)
 担当会場：有明アリーナ



担当した有明アリーナ会場では、バレーボール(オリンピック)、車いすバスケットボール(パラリンピック)が行われました。有明アリーナは新設された会場で、当初15,000人の観客を取容予定でしたが、残念ながらコロナ禍により無観客試合となりました。しかし、競技時間・競技期間ともに全競技中最長であり、約500人の関係者の医療対応のために昭和大学のコラボレーター医師・看護師56名が参加しました。遅刻や欠勤も皆無で円滑な活動が行えました。

競技期間前は多数のコラボレーターの複雑なシフト調整や研修を行い、組織委員会と様々な調整事項があ

る中で大会延期や無観客決定に伴い決定事項の変更が頻りに生じ、混乱したこともありましたが、また練習会場を含めた7カ所の医務室設置作業も行いました。このような地道な準備期間の作業や、Venue Operation Plan(会場運営計画)に作成当初から関与したこと、またテストイベントや公式練習全てに参加し着実に問題を改善していったことがオリンピック・パラリンピックでの業務内容のより深い理解に繋がっており、会期中のスムーズな運営に役立つと思っております。会期中は受診者合計60名、要搬送者6名で会場から重傷者は出ませんでした。また、濃厚接触者チームが6チーム試合を行いました。幸い会場内での感染事例は発生しませんでした。

垂水 庸子

(昭和大学病院救急診療科)
 担当会場：有明アリーナ



私は今回のオリンピックで新しく採用されたスケートボード競技2種目とBMX(バイシクルモトクロス)の2種目の競技会場である有明アリーナを担った。この大会の会場医療責任者を担

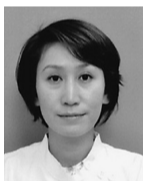
た。皆様のご協力があったこと無事に終了できたと思っております。この場を借りて御礼申し上げます。

おります。この場をお借りして関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。



マイヤース 三恵

(歯科病院地域連携歯科)
 担当会場：選手村ポリク



その後、2021年5月のテストイベントから本格的に準備を再開しました。当会場は屋外競技であるため、観客及びボランティアの感染予防対策に加えて熱中症対策を重点的に行いました。十分な準備期間がなく不安でしたが、結果的には無観客開催によって大きく救われました。

当会場の観客医療チームは最終的に医師3名・看護師3名という構成になりました。少人数であったこと、またスタッフ一人ひとりの人柄もあり、常に和気あいあいとした楽しい雰囲気であ

急に環境改善をおこなっていただきました。



八木 正晴
 (昭和大学病院救命救急科)
 担当会場：お台場海浜公園

コロナ禍での開催となり、委員会からの情報提供が直前になったり、届かないこともあり、「やるべきこと」の想像がつかず、本当に完全に治療ができるか不安を抱えることもありました。実際に始まってみると、選手村での歯科診療は、歯科のコアメンバーの先生を中心に各専門領域に患者を振り分け、お互いに連携しながら治療ができたため、スムーズに行えました。PCR検査の徹底ということに

あつたかと思いますが、感染対策に関しては、日々情報共有して、改善が必要

トリアスロン競技の医療を行うためには、水泳・自転車・マラソンが短時間の間に、シームレスに行われるため、コマンドセンターでの状況把握と的確な各医療チームへの指示出しが必要で、このことがテストイベントでわかっていったため、最初から、コマンドセンターで私が全体の把握を行い指揮を取る形とし、各部所(水泳、自転車とマラソン、選手用医務室、観客用医務室)に責任者を配置し、指揮命令系統図を明確にして、コミュニケーションン手段(主に無線)を活用し、医療活動を行いました。まさに災害医療と同じノウハウが必要でした。

トリアスロンでは、雨天となった際に、自転車で4分の間に3名が落車し、医療対応を行わなければなりませんでしたが、現場にいる医師の位置把握と傷病者の情報把握を行い、指揮をすることができました。

メディカルスタッフ一覧

学生ボランティア一覧 (学部学生・大学院生)

施設名	職種	氏名
昭和大学病院	医師	角田卓也、八木正晴、垂水庸子、佐々木 駿、平井隆仁、吉泉絵理、安井 理、井上達貴
	看護師	中根香織、諸戸安恵、和田麻依子、渡邊恵利、津藤紗織、齊木伸枝、瀨田杏子、遠藤てらの、鈴木蝶子、倉永成未、稲森万莉絵、瀬川由希奈、高橋比呂子、菱崎琴音、西村江未
東病院	看護師	戸田桂子、會田恵子
藤が丘病院	医師	江波戸美緒、佐藤賢忠
	薬剤師	宮本 渚
リハビリ病院	看護師	小林恭代、山上すみれ、井澤瑠里、中川あずさ、橋本黎子、小俣宣子、坂本篤子
	看護師	木下桃世
横浜市北部病院	医師	藤巻良昌、宮地英行、國井 葉、前田昭彦、大下優介、山口正哉、遠藤貴美、江守 永
	薬剤師	高田昂輔、磯崎 遥
江東豊洲病院	看護師	加藤美穂代、加藤知也、山崎綾音、八城こと美、相原奈津美、浅利恭子、鄭 雅玲、小山珠実、下村明穂
	医師	池田尚人、上條由美、眞野英寿、森田 将、小菅正太郎、江口潤一、野村憲弘、佐藤 敦、佃 玄紀、横井健人、年森明子、島村勇人、田邊万葉、大和屋 仁
鳥山病院	看護師	山下孝子、松本貴子、倉富英明、佐々木 睦、野木京香、横内智子、加治屋広美、山内和夏、三島真緒
	看護師	沢田祐子、吉留 涼
歯科病院	歯科医師	佐藤裕二、マイヤース三恵、下村直史、嘉手納末季、馬目瑠子、永井大輝、石川 悟
	歯科衛生士	杉本承子、渡邊友梨、篠崎由季、松田 梢、高澤友里
大学	医師	上條翔太郎
看護専門学校	看護師	柴田雅子

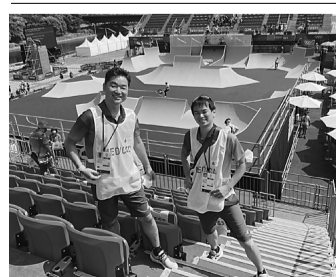
学部	学年	氏名	活動内容
医学部	3年	西谷 秋星	馬術競技のメディカルスタッフサポート
	4年	新井 元	馬術競技のメディカルスタッフサポート
歯学部	3年	山下 りず	馬車公苑の食事配膳
	2年	笠島 真帆	卓球競技のサポート
薬学部	3年	阿部 有佐	聖火リレー (中止)
	4年	野口 友暉	ビーチバレーのアスリートサポート
保健医療学部	3年(看護)	三浦 愛理	パラリンピック競技体験施設周辺での案内・無料タオル配布
	4年(看護)	林 芹菜	ヘルスケア
保健医療学部	3年(看護)	原田美奈穂	体操・新体操、パワーリフティング競技のサポート
	3年(理学)	田邊 綾乃	マラソンロード給水係 (パラリンピック)
保健医療学部	4年(看護)	武藤 優花	閉会式の旗手

(学部学生：ほか1名)

研究科・学年	氏名	活動内容
医学研究科3年	川崎 正義	馬術競技のメディカルスタッフ
歯学研究科3年	山口 真帆	選手村での歯科治療
薬学研究科4年	三刀屋 亮	選手村での薬剤師業務

まえて医療計画を立てることができ、大きな事故もありません。

最後に、このような経験



をすることができました。AMSV(選手用医療統括者)の医師が、以前からトリアスロン競技に災害医療のノウハウ(CSCARTT)を取り込んで考えていたため、一緒に計画を立て実行していくことができたと思っております。

大学院秋季修了式

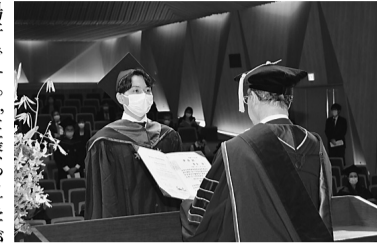
9月30日、令和3年度昭和大学院秋季修了式を上條記念館で挙行了。

今年度は医学研究科20名、薬学研究科6名、保健医療学研究科博士前期課程8名、同研究科博士後期課程3名が全課程を修了し、各研究科の代表者に久光正学長から学位記が授与された。

久光学長は告辞で「大学院は、既にあることを学ぶのではなく、新たに何かを見出し世の中に広く公表する



告辞を述べる久光正学長



学位記授与

場所です。医療や科学が進歩する原動力を作る。というのを学ぶ、とても価値のある時間であったことと思います。さらに研究を継続し、新しいことを見つけていくという心構えを忘れず、一生にわたって継続されることを期待します」と述べた。

薬学部卒業式・学位記伝達式

9月30日、令和3年度昭和大学薬学部卒業式・学位記伝達式を上條記念館で挙行し、久光正学長から卒業生7名に学位記が授与された。

中村明弘薬学部長は挨拶で「大学で学ぶべきものをす



挨拶する中村明弘薬学部長



学位記授与

べて履修し、この時を迎えた自分をほめてあげてほしい。そして、国家試験後、薬剤師になった後は、相手の立場に立つてまごころを尽くす。至誠一貫の精神で社会に貢献する医療人になつてほしい」と述べた。

医学部白衣授与式

9月22日、上條記念館で令和3年度医学部白衣授与式を挙行了。

同式は、臨床実習を目前に控えた医学部4年生が倫理観や患者さんに対する思いやりの心を再認識して、医師を目指す者としての心構えを新たにすることを毎年実施している。

今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、校歌斉唱は清聴のみにするなど、必要な措置を講じたうえ、対象学年124名と一部の大学関係者のみで執り行った。



告辞を述べる小風暁医学部長



代表者への白衣授与

その後、代表者1名に對し、小風医学部長から白衣が授与された。学生たちは真新しい白衣に袖を通し、これから始まる臨床実習への決意を新たにされた。

昭和大学リカレントカレッジ秋期入学式

9月25日、上條記念館にて令和3年度昭和大学リカレントカレッジ秋期入学式を挙行し、154名が入学した。



式辞を述べる小川良雄プリンシパル

新設のためオンラインを併用しての開催となったが、小川良雄プリンシパルは式辞でリカレントカレッジは、学びの場を通じて新しい価値を見出す・社会人の知的探求心を満たす・新しい文化を発信するという3つのコンセプトの下、開かれた自由な教育を目指している。楽しくワクワクする講座で皆さんと一緒にリカレントカレッジを盛り上げ、さらに飛躍していきたい」と述べた。

本学の包括連携協定校である洗足学園音楽大学のチェリスト・荒庸子教授の演奏により、新たなスタートにふさわしい開会となった。



洗足学園音楽大学・荒教授による演奏

ヒューマンライツ・トークショー開催

「笑いとトークでコロナを吹き飛ばそう」

10月5日、昭和大学人権啓発・福利厚生イベント「ヒューマンライツ・トークショー2021」を上條記念館上條ホールで開催した。

新型コロナウイルス感染症防止のため、各附属病院・各キャンパスにサテライト会場を設置し、収容人数に制限を設けたほか、Zoomウェビナーによるオンライン参加も可能とした。



ネタを披露する「中川家」



トーク・セッションの様子



トーク・セッションに臨む相良病院長



「アイロンヘッド」



「とろサーモン」

院長と「中川家」・「とろサーモン」によるトーク・セッションも行われ、会場の観客からはマスク越しに笑顔があふれ出した。

就任のお知らせ (10月12日 理事会承認)

医学部内科学講座(消化器内科学部門)担当 教授(員外)
(勤務地: 昭和大学江東豊洲病院消化器センター(消化器内科))
伊藤 敬義
前: 医学部内科学講座(消化器内科学部門)担当 准教授
(勤務地: 昭和大学江東豊洲病院消化器センター(消化器内科))
任命日: 令和3年11月1日



昭和大学病院先端がん治療研究臨床センター長
吉田 仁
現: 内科学講座(消化器内科学部門)担当 教授
(勤務地: 昭和大学病院消化器内科)
任命日: 令和3年10月1日



保険・資産運用・住宅ローン等のご相談は
各最寄の店舗までお気軽にご相談下さい。

- 長原支店 TEL: 03-3720-0171
- 横浜藤が丘支店 TEL: 045-982-7545
- 港北ニュータウン支店 TEL: 045-941-1512
- 深川支店 TEL: 03-3641-8301
- 烏山支店 TEL: 03-3307-3613

学生研修報告

米国ポートランド州立大学 夏季オンラインプログラム

昭和大学は国際的な視野を持った医療人を育てるため、国際交流プログラム・短期海外研修の企画・実施に力を入れており、毎年世界各国の大学や医療施設に学生を送り出している。

ポートランド州立大学(以下、PSU)とのサマープログラムは2006年に立ち上げ、「昭和大学の学生のためにデザインされたプログラム」を導入している。

今年度はコロナ禍のためオンラインでの英会話と医療英語クラス、PSU及び近隣の医療系総合大学の学生との交流、ホームレスシェルターを事例としたSDGsへの取り組みについて学ぶプログラムを提供し、各学部と看護専門学校から10名の学生が参加した。

椎葉 未怜(医学部1年)

私がプログラムに参加した理由は、元々留学に興味があり、現地に行けなくともオンライン上で現地の方々と交流することに意義を感じたからです。

プログラム中は誰でも自由に発言できる雰囲気であり、取り敢えず何か言ってみようという姿勢で参加できました。医療についてやSDGs、貧困などについても学びました。しかし、相手が言っていることは理解できず、自分の考えをどのように表現すればよいかすぐには思いつきませんでした。

言った後に今の英語は少しおかしいな、と感じることも多く、授業の勉強と実際に使える英語能力は全く異なるということを痛感しました。現地の方の話を聞いた際に特に感じたのは、先生方は生徒が分かりやすい表現で教えてくださっていた、ということでした。表現



も多様でスピードも速い現地の英語を習得するには、実際に話す、聞く、といった練習が必要だと感じました。最終日に私はペアの子と休日にポートランドを観光するという設定で発表を行いました。ポートランドは雰囲気良く、お店が沢山ある魅力的な街です。今回学んだことを、いつか実際に自分の目で見て体験したいと強く感じました。短い期間でしたが、参加して心から良かったと思っています。

私は英語が苦手な人です。英語のクラスも一番下です。しかし、海外旅行や外国人と話すのは好きで、一人で海外旅行に行っても楽しめるくらいに英語ができるようになっていきたいと思います。このプログラムは外国人の先生による授業やポートランドの大学生と話す機会があり、英語力を向上できると思ったので参加しました。

授業ではポートランドの有名な場所やSDGs、実践で役立つような医療英語も自己紹介から学び、最後にはSDGsについて英語で発表しました。授業中に自分

の意見を聞かれることがあり、慣れていないうえ、英語で言わなければならないのがとても大変でした。また、先生の授業は聞き取れても大学生が普通に話していることは聞き取れず、まだまだだなあと感じました。この研修を通して、英語を聞き取る力と話す力が身につきました。また、少しですが自分の意見を英語で言うことにも慣れてと思います。さらに、医療英語を学んだので、外国人の患者さんにも対応できるようになったと思います。今後は先生が教えてくれたおす



手島 望(歯学部3年)

今回のプログラムには、英語力を上げたいという気持ちと、コロナの影響によりできることが制限されている中でも、夏休みという長期休暇に何か自分の成長につながる思い出になることをしたいという気持ちから参加することを決めました。

プログラムの中ではポートランドの土地について学んだり、ゲストスピーカーの方からお話をうかがったりしました。特に印象に残っていることは、オレゴン健康科学大学の歯学部の学生さんとお話をしたことです。自分の言いたいことをなかなか伝えられなかったり、聞き取ることができなかったり、歯がゆさもありましたが、英語を使つての実践的な会話、それによってお互いの大学の違いや良さなどを伝えあつたことはとても刺激的でした。



北村 愛理(保健医療学部 理学療法学科1年)

PSUプログラムはスピーキングを中心としたネイティブの先生の日常・医療英語クラスや現地の医療系大学生との交流などが企画されています。私はスピーキング力の向上と海外への憧れを理由に参加し、夏の思い出に残る五日間を過ごすことができました。

私がこの五日間を通して学んだことは、小さなことでも自分の意思をしっかりと持ち、相手に伝えることの大切さです。ネイティブの先生との会話の中では頻りに意見を問われることが多く、言葉のキャッチボールをもとに相手の気持ちを理解していくのだと感じました。自分の複雑な気持ちを相手にすぐに伝えられるのは素直でないとできないことだと思えます。相手の様子を伺い、気持ちを察する日本人の私にとってこの

すめスポットに実際に行ったり、現地に行く留学プログラムに参加したいです。

意見は聞かれることがあり、慣れていないうえ、英語で言わなければならないのがとても大変でした。また、先生の授業は聞き取れても大学生が普通に話していることは聞き取れず、まだまだだなあと感じました。この研修を通して、英語を聞き取る力と話す力が身につきました。また、少しですが自分の意見を英語で言うことにも慣れてと思います。さらに、医療英語を学んだので、外国人の患者さんにも対応できるようになったと思います。今後は先生が教えてくれたおす

先生方は、拙い英語でも相槌を打ってくれて発言しやすい雰囲気がありました。先生のSDGsも聞き取りやすい単語を用いてくれて理解しやすい授業でした。また、Discussionが多く、オンラインながらも実際にみんなで体験できている感じが味わえたのが良かったです。自分の意見だけでなく相手の意見も聞きつつ、そのうえでまた自分の意見を...という風に繰り返していき、グループの狭いコミュニケーションで活発に発言することで、全体に戻った時あまり緊張したりすることなく発言できていたように思います。今は、コロナの影響で実際に現地

に行くことは難しいですが、様々な話を聞いたことで、興味がわきました。実際に現地の大学生と話す機会もあり、その時には自分の聞きたかったことだけでなく向こう側も多くの話題をあらかじめ用意してくれていたため、話題を作りやすく積極的に参加できました。今回のプログラムを通して、看護師になるための勉強を全力で頑張るための勉強を格し、資格を得た上で将来海外で働きたいと思いまし

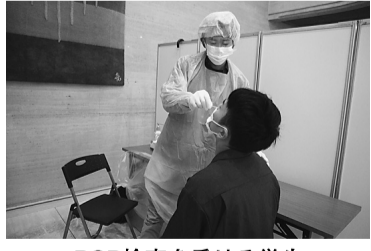
高橋 里佳(看護専門学校2年)

今回、私がこのプログラムに参加した理由は、二点あります。一つは、英語力を取り戻すためで、もう一つは友達におすすめされたからです。

先生方は、拙い英語でも相槌を打ってくれて発言しやすい雰囲気がありました。先生のSDGsも聞き取りやすい単語を用いてくれて理解しやすい授業でした。また、Discussionが多く、オンラインながらも実際にみんなで体験できている感じが味わえたのが良かったです。自分の意見だけでなく相手の意見も聞きつつ、そのうえでまた自分の意見を...という風に繰り返していき、グループの狭いコミュニケーションで活発に発言することで、全体に戻った時あまり緊張したりすることなく発言できていたように思います。今は、コロナの影響で実際に現地

1年生の後期寮生活がスタート PCR検査実施後、富士吉田キャンパスへ

10月4日、1年生の後期寮生活がスタートした。各学部の1年生は、7月21日から夏季休暇のため一時退寮し、9月1日より自宅でオンライン授業を受けていたが、新型コロナウイルスの感染の広がりが落ち着いたことから、寮生活の再開となった。



PCR検査を受ける学生
学生を乗せ富士吉田キャンパスへ

生協は学園生活のパートナーです

昭和大学生生活協同組合

旗の台 3788-2322(内線)8268 アミ 3785-9729(内線)8369
吉田 0555-23-8505 洗足 3787-4432 横浜 045-985-9624

医学堂書店

品川区 旗の台 電話(03) 3783-9774

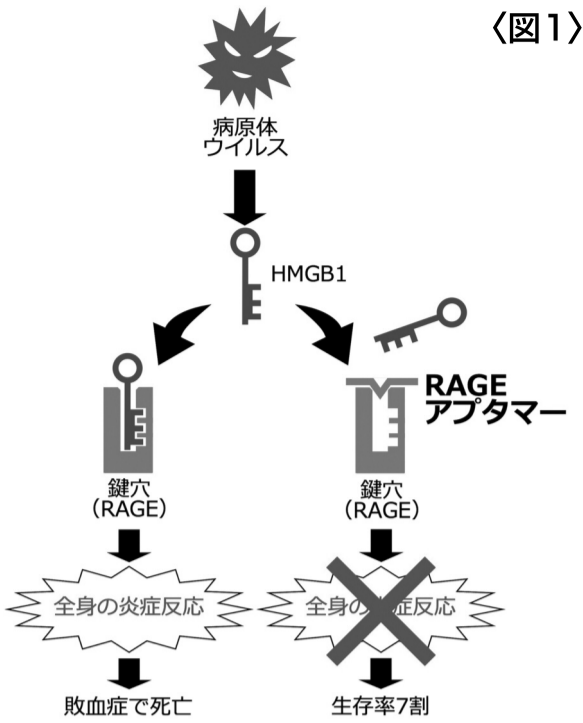
動物モデルの敗血症を阻止する

新薬開発に成功

山岸昌一教授らの共同研究チーム

山岸昌一教授(医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科学部門)らの共同研究チームは、RAGEに蓋をしてHMG B1 (high mobility group box 1) と RAGE との結合を阻害する核酸医薬品(RAGEアプタマー)を用いることで、モデル動物の敗血症死が劇的に抑えられることを世界で初めて明らかにした。本研究成果は、論文引用頻度の極めて高い国際学術誌『Oxidative Medicine and Cellular Longevity』に掲載された。敗血症は、ウイルスや細菌の感染などにより、臓器障害が進行して死に至る可能性もある重篤な疾患である。世界中で敗血症により年間500万人以上が死亡していると推定されているが、治療法の選択肢は限られており、有効性の高い治療法はまだ確立していない。新型コロナウイルス感染症がパンデミックの様相を呈する中、敗血症に対する新たな治療手段の開発は、喫緊に取り組みなければならぬ最重要課題の一つである。敗血症は、病原体が体内に侵入し、全身に炎症を引き起こされることで始まる。最近、この炎症反応に糖化したタンパク質であるAGE (エイジー) がはまり込む鍵穴(RAGE) レイジが関与することが明らかになってきた。病原体の侵入は、HMG B1 という物質の産生を引き起こし、RAGEを刺激することで敗血症が進展してゆく(図1)。今回、山岸教授らは、RAGEに蓋をしてHMG B1 と RAGE との結合を阻害する核酸医薬品 RAGEアプタマーを用いることで、モデル動物の敗血症死が劇的に抑えられることを世界で初めて明らかにした。この RAGEアプタマーが重症感染症による敗血症に対して新しい治療手段になりうる可能性があることを示した。

■論文タイトル
雑誌名: Oxidative Medicine and Cellular Longevity (Impact factor: 6.543)
論文名: DNA-Aptamer Resisted against Receptor for Advanced Glycation End Products Improves Survival Rate in Septic Mice
DOI: https://doi.org/10.1155/2021/9932311



図の説明
病原体やウイルスに感染すると、体内で生産されたHMGB1が鍵穴 (RAGE) に結合し、敗血症を発症する。RAGEアプタマーはRAGEに蓋をすることで鍵穴を塞ぎ、モデル動物の敗血症による死亡を防ぐ。

令和3年度 昭和大学リカレントカレッジ秋期プログラム開講

10月1日よりリカレントカレッジ秋期プログラム全16講座が開講いたしました。11月は新たに2講座が開講し、12月以降も続々と開講を予定しております。引き続き募集している講座もございますので、ご興味のある講座がございましたらお早めにお申し込みください。

プログラム名 (12月開講)	講師 (敬称略)
元オリンピックトレーナーから学ぶ! 100歳までスポーツのできる身体を目指す	曾我 武史 奥茂 敬恭
正しい筋力増強～トレーニング及び栄養におけるサイエンス～	蜂須 貢
医薬品登録販売者のための実践薬学講座 ～スタンダードコースその2～	赤川 圭子 他
プログラム名 (1月開講)	講師 (敬称略)
医療従事者のための英会話講座 ～応用編～	クリス・シリー 他
自然治癒力を高めましょう! ～ストレス社会を軽やかに生きるために～	佐々木晶子 他
プログラム名 (2月開講)	講師 (敬称略)
元オリンピックトレーナーから学ぶ! 疲れにくい体をゲットする美姿勢トレーニング	曾我 武史 奥茂 敬恭

※問い合わせ 昭和大学リカレントカレッジ事務局 (03-3784-8143)
リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。



実際に体を動かすプログラムも多く取り揃えており、ご家族での参加も増えています。



実地見学などの体験型のプログラムもございます。



▼ハイブリッド講座では、全国各地からオンラインでご参加いただいています。

小原信講師が老化および老年医学研究助成を受賞

第6回日本老年医学会

小原信講師(医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科学部門)が、第6回日本老年医学会老化および老年医学研究助成を受賞した。同研究助成は、老年医学における基礎的・臨床的研究において、新知見の得られる可能性を持つ革新的な研究プロジェクトの発展促進を図ることを目的としている。

小原講師は研究名「終末糖化産物を標的としたフレイルに対する包括的な治療手段の開発」が高く評価され、同賞に選定された。

このたび、第6回日本老年医学会老化および老年医学研究助成を受賞し、大変光栄に存じます。日本においては、1970年に高齢化社会に突入しました。その後も高齢化率は急激に上昇し、1994年に高齢社会、2007年に超高齢社会へと突入しました。今後高齢者率は高くなると予

測されており、2025年には約30%、2060年には約40%に達すると見られています。未曾有の高齢化社会を迎えつつある我が国において、健康長寿の足かせとなっているフレイルや寝たきり状態には、老年病である認知症、骨粗鬆症、サルコペニアなどが複合的に関与しております。また、これらのリスクとして生活習慣の欧米化やそれに伴う糖尿病や肥満、メタボリックシンドロームなどの

生活習慣病の蔓延が示唆されています。今回我々は加齢、糖尿病、食・生活習慣の歪みによって促進的に形成・蓄積される終末糖化産物AGEsに着目し、老年病モデルマウスに対し、AGEsとその受容体RAGE (receptor for AGEs) を阻害するアプタマーを投与することによって、認知機能、骨密度、骨格筋量の低下や骨質の劣化が抑制し、高齢者のフレイルや寝たきり状態への進行を防ぐ新しい治療手段となりうるかどうかを明らかにすることを目的として研究を行いました。

普段から研究を支えて下さる山岸昌一教授および森雄准教授に心より御礼申し上げます。今後より一層、高齢者の患者さんの力になるべく臨床及び研究に邁進する所存です。



昭和大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

- 医学部への寄付
 - 【同窓】田崎 博之 様(医学部・33回生) / 川口 未央 様(医学部・63回生)
- 歯学部への寄付
 - 【父母】根間 昌輝 様 / 佐野 真弘 様
- 薬学部への寄付
 - 【父母】岡田 健 様 / 鈴木 豊一 様

- 教育研究協力資金への寄付
 - 【職員】扇谷 芳光 様 / 小林 靖奈 様
 - 【同窓】石田 憲毅 様(医学部・58回生) / 小林 玄彦 様(医学部・39回生)
- 昭和大学病院への寄付
 - 【職員】村上 幸三 様
- 病院建設・運営維持への寄付
 - 【同窓】井田 洋子 様(薬学部・1回生)